

市民新聞

二十四孝の彫刻がある
東光寺の「金毘羅堂」



姜詩の故事（母のため、毎日遠い大河の水を汲み魚を獲っていた姜詩の家の庭に、突然川の水が湧き容易く鯉が獲れるようになった）

東光寺は、所沢市城に所在した「滝の城」の城主・北条氏照により、城の東北に鬼門の鎮めとして建立したと言われる。廃城後の慶長5年（1600）に本寺である永源寺（所沢市久米）の七世「孝山大舜大和尚」が開山となり、現在の所沢市坂之下に移った。

本殿の側面には、中国故事「二十四孝」に由来する唐夫人（とうのぶじん）、姜詩（ききょうし）＝写真Ⅱ、郭巨（かつきよ）という3人を題材にした彫刻が施されている。

「二十四孝」とは、儒教の教えを重んじ孝行を推奨した中国古代から伝えられてきた24の親孝行の物語。室町時代には日本へ伝わり、江戸時代には絵入りの物語である御伽草子や浄瑠璃「本朝廿四孝」など芸能にも多く取り入れられ、寺子屋の教材としても採用された。当地の金毘羅は毎月10日の縁日で護摩供養が行われ、とくに3月10日の大祭では露天が並び境内は参拝客で賑わう。また朝金毘羅とも言われ、縁日では朝早くお参りすればするほど御利益があると伝わる。

参拝のあと来場者は、親孝行3人の彫刻を拝覧している。東光寺へは、所沢駅東口から志木駅南口行バスで「金比羅」下車すぐ。▲



東光寺金毘羅堂
二十四孝の
彫刻について
●記事は「市民新聞」より抜粋



相談
窓口

特別に相談のある方は、電話で予約され、御来山下さい。

令和三年 年回表

- 一周忌 令和二年
- 三回忌 令和元年
- 七回忌 平成二十七年
- 十三回忌 平成二十一年
- 十七回忌 平成十七年
- 二十三回忌 平成十一年
- 二十五回忌 平成九年
- 三十三回忌 平成元年
- 五十回忌 昭和四十七年

毎月十日は金毘羅山の縁日となっております。皆様ぜひご参詣ください。